

地域健康社会学研究センター

Research Center for Social Studies of Health and Community



地域、健康、社会、人間を探究し、 誰もが生き方・暮らし方を尊重される地域づくりを考える

本研究センターは住民の参加・協働による地域健康の創出に向けた学問を目指し、歴史・実践、現状分析・方法開発、それらの基礎となる人間観の基礎的検討を、公衆衛生学・疫学・社会学・心理学などの学際的な研究をまたがって進めることを目的としています。

健康は単に疾患にかかっていないという視点からではなく、生活習慣や生活背景、地域、社会の中でどのように歩いていくか、地域社会の健康問題の改善も行っていくことが大切です。

地域健康社会学はさまざまな研究分野がまたがる領域で地域、健康、社会、人間を探究することを目指し、地域の健康課題をどのように住民自身が自分たち地域の課題だと考え、地域にどのようにアプローチして変えていくか考えていきます。この21世紀型の地域社会の創出を目指す学を「地域健康社会学」と呼び、その基盤を築くことを目指します。



研究の視点

地域健康づくり知識基盤プロジェクト

- 生活習慣病に関連する社会的要因
- デジタル健康
- レジリエントな健康・医療機構

地域健康主体形成プロジェクト

- 当事者組織
- 地域健康史
- 消費生活
- 社会運動と住民参加型健康福祉組織

地域健康情報プロジェクト

- データヘルスの住民視点の活用
- 生活背景の情報と健康
- 地域社会・ナラティブ・健康

地域・健康・人文学プロジェクト

- 地域健康づくりの理論枠組み
- 臨床社会学・社会病理学的検討
- 総合心理学・臨床心理学的検討
- 復興と健康

ターゲット

地域社会の人々の健康にはどのような特徴があるのか、その社会背景の違いも予防因子として疫学等の手法を用いて健康課題を明らかにする。行政のみならず住民も一緒になって、「自分のからだは自分でまもる、地域の健康は自分たちでまもる」ことを考えてもらう。

地域健康社会学

衛生公衆衛生学(社会医学)、社会学(社会病理・社会問題研究)、心理学(臨床と応用心理分野)などさまざまな研究分野にまたがる領域から、総合的に地域、健康、人間、社会を探究していく。

ゆりかごから墓場まで

健康を単に病気という視点からではなく、社会生活を営む上で生じてくる健康課題ととらえ、貧困や虐待、教育(学歴)、雇用などの社会格差、健康格差も視野に入れ、可能な限り健康に過ごすためには、何が、またどのようなものが必要なのか、また各人や地域が心がける必要があるとすれば、どういったことか。人のライフサイクルを総合的にみつめる。



主な研究テーマ

- 京都における地域健康運動の歴史
- 地域健康づくりの現代的課題の追究
- 生活習慣病に関連する社会的要因に関する研究
- 社会における健康リスクと関連要因に関する研究、社会格差、健康格差
- 自治体データヘルス計画策定への知見
- 「地域健康社会学」、「総合人間学」の創造と探究



センター長：早川 岳人(衣笠総合研究機構 教授)

主な研究拠点：衣笠キャンパス

お問い合わせ：立命館大学 研究部 衣笠リサーチオフィス内 地域健康社会学研究センター事務局 TEL: 075-465-8358 FAX: 075-465-8245

✉: health-c@st.ritsumeik.ac.jp <http://www.ritsumeik.ac.jp/research/health-c/>